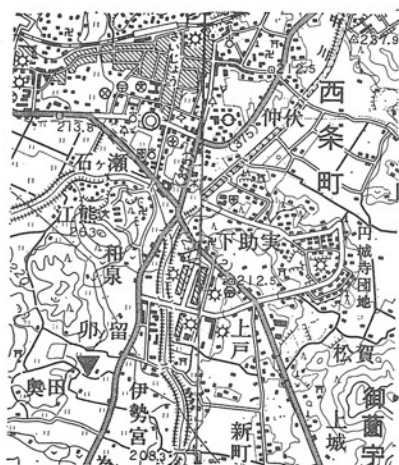


広島・道照遺跡 どうしょう

- 1 所在地 広島県東広島市西条町大字御園字
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～八月
- 3 発掘機関 広島県教育委員会・勸広島埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 鍛冶益生・福島政文・三枝健二
- 5 遺跡の種類 居館跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉末～南北朝時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(海田市・竹原)

道照遺跡は、広島県中央部にあたる西条盆地の水田地帯を望む低丘陵先端部に位置している。通称、道照館と呼ばれる居館跡と同館周囲に広がる集落跡を中心とする遺跡で、国道二号線の西条バイパス建設工事に伴って調査が行

なわれた。

調査は、事前に行なった試掘調査をもとに、道路建設予定地内を長さ約一五〇m、幅約三〇mにわたって行なった。

検出遺構は、居館内では土塁、居館外北側では、濠・掘立柱建物跡四棟・井戸一基・土壇一基のほか弥生時代の住居跡一棟を検出した。また、居館外東南側では掘立柱建物跡一二棟、鍛冶場跡二箇所、井戸五基等があった。

出土した遺物は、土師質土器、瓦器、陶器、磁器などの土器類、椀、木鍬、下駄、曲物、箸状木製品、折敷、杓、木桶等の木製品や鉄釘十数点のほか、試掘調査の際、居館外東南で検出した土壇内より木簡一点が出土した。

8 木簡の积文・内容

・(戯画)

・×
×

(123)×(42)×6 197

くり返し記されたものと思われ、判読は困難である。

9 関係文献

広島県教育委員会・勸広島埋蔵文化財センター『道照遺跡』

一九八二年
(福島政文)